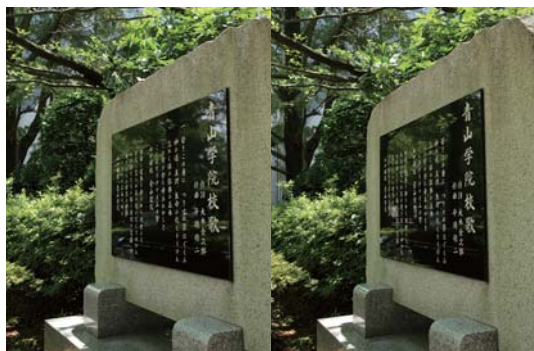


3Dで見る青山キャンパス。

まず遠くのものを見つめながら、ここにある青山キャンパスの写真のどれか1組を目の前に持ってきてください。
そして、視線は動かさずに、意識を写真の上の黒い点に移します。2つの点が合わさって1つに見えて来たら、
そのまま写真を見つめてください。キャンパスが立体的に、身近に感じてきませんか。
この実験は授業でも採り上げられます。では、今度は本当のキャンパスで、さらに心理学の奥深さを学んでいきましょう。



青山学院大学 教育人間科学部

心理学科

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学心理学科合同研究室 TEL 03-3409-9445

青山学院大学ホームページ <https://www.aoyama.ac.jp/>

2021年5月31日制作

青山学院大学 教育人間科学部

心理学科

Department of Psychology

2021





科学的に、実践的に“こころ”に迫り、 人間心理を真に読み解く知恵を身につける。

心理学は、単に知識を身につけるだけの抽象的な学問ではありません。ことに青山学院大学の心理学科は「心理学を学ぶことで、世の中に役立つ具体的な知恵や実践的技術を修得する」ことをめざす学びの場です。本学科のカリキュラムでは、乳幼児期から高齢期にいたるライフサイクルの中で、人間がどのように発達・学習・社会化・成熟していくかについて専門的に学びます。また心理学は、文系と理系双方の理論が根底と

なっているため、偏りのない多面的な発想力も養え、卒業後も活躍の場は、教育現場や医療・福祉の現場だけでなく、一般企業の人事や労務、あるいは企画部門など多様な分野にわたります。内なる小さな宇宙である「心」には、まだまだ未知なる領域が広がっています。その解明を目指して、青学・心理学科でともに探究していきましょう。



学科の特色

〈認知〉〈発達〉〈社会〉〈臨床〉——心理学の4つの専門領域を、
「心理学基礎」をベースに広く、深く、探究していきます。

本学・心理学科のカリキュラムには、感覚・知覚の基礎領域から、社会・臨床の応用領域にいたるまで、バラエティ豊かな科目が揃っています。これらの科目群は、「認知」「発達」「社会」「臨床」の専門4領域に分類され、それぞれの最新の研究成果をふまえて、科学的に、人間学的に、総合的に探究していくことができます。また、教育人間科学部は教育学科・心理学科の2学科体制のため、ともに“人間”に深く関わる隣接2分野という特質を

活かして、乳幼児から子ども・青少年、成人、高齢者まで“人のライフサイクル全体にわたる”発達・教育・心理を通したトータルな人間研究の視点を大切にしています。こうした視点から児童に対する虐待や、いじめ、ドメスティックバイオレンス、あるいは生涯発達の視点から高齢者支援、さらには被災者支援といった今日的課題も視野に入れ探求します。このようなさまざまな課題の解決に向け、より深く、実践的に取り組むこともできます。

学科科目の領域構成

まずは、心理学ビギナーへの講義「心理学基礎」によって、心理学に関する基本的な知識・スキル・研究態度を身につけます。そのうえで「認知」「発達」「社会」「臨床」の専門4領域を、興味や関心に即して、より深く学習・研究していきます。さらに併行して「哲学・認識論」関連科目によって、創造的な発想を引き出す思考力も鍛えます。

心理学基礎

心理学を学ぶにあたって、その基礎となる知識・スキル・研究態度などを中心に学びます。ここには、心理学研究に必要な統計学やコンピュータ関連分野の学びも含まれます。

開設科目

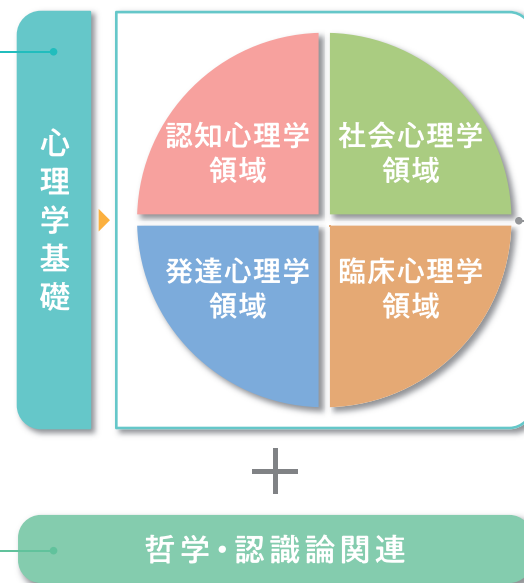
心理学基礎演習、心理学概論、心理統計基礎など

哲学・認識論関連

「分かる」とはどういうことなのか?そもそも、それは可能なのか?普段とは異なる観点から物事を考察し、創造的な思考力を鍛えます。

開設科目

哲学的認識論、哲学文献講読演習、心の哲学など



認知心理学

学習、思考と記憶、言語と知識、問題解決、創造性などについて実証的研究を通して、人間の認知機能を探究していきます。

開設科目

認知心理学概論、認知心理学A・B、認知科学概論、認知心理学特講A・Bなど

発達心理学

生まれてから死にいたるまで、人間の心は、どのように経年変化していくのか、そのメカニズムを探っていきます。

開設科目

発達心理学概論、発達心理学I・II、発達心理学特講A・Bなど

社会心理学

社会と個人の関係、対人関係、社会が心を与える影響などについて、理解を深めていきます。

開設科目

社会心理学概論、社会心理学A・B、社会心理学特講A・B、産業組織心理学など

臨床心理学

心の問題を抱える人に対応するために、一人ひとりの心に寄り添った心理学的アプローチのしかたを学んでいきます。

開設科目

臨床心理学概論I・II、相談心理学、心理的アセスメントA・B、心理学的支援法、臨床心理学特講A・Bなど

教育学科とのコラボレーション

教育人間科学部は心理学科と教育学科で構成されています。両学科ともに、さまざまな社会や環境の中で成長・発達し、適応し、より良い生を追求する「人間」を教育研究の対象とし、人間理解を深めようとしています。そして、得られた学問成果を現実の生きている人間・社会に還元し、人間の成長・発達や問題解決の役に立てようとしています。このような

研究と実践という2つの側面をあわせもっていることが教育人間科学部の大きな特徴のひとつです。心理学科と教育学科が提携することにより、乳幼児、子ども、青年、成年、壮年、高齢者とさまざまなライフステージにある人間の発達・教育・心理に関する多様な科目が集積され、人間をより総合的に学ぶことができるのです。

基礎理論をふまえ、多彩な実験、演習などの実践的な学びを通して、広く、深く“心理学”を探究していきます。

1年次

まず最初に、心理学の基礎的な理論、分野、研究法、成果などを学びます。



○心理統計基礎

学問的基礎を学ぶとともに、心理学研究に不可欠な情報処理技能について、1年次では、データ処理の基本的な考え方とスキルを習得します。

心理学研究で必要となる情報スキル

- 「パソコンを使って実験を行うためにプログラムを書く」
- 「実験機器をコンピュータで制御する」
- 「画像や音声を編集する」
- 「データを統計処理・分析する」など

必修科目 心理学基礎演習、心理統計基礎、心理学概論

選択科目 認知心理学概論、発達心理学概論、社会心理学概論、臨床心理学概論Ⅰ・Ⅱ

先生からのメッセージ

いまだで自分や他人の言動、心理について疑問に思っていたことが、これらの授業で解明されることがあります。

なるほど、そうだったのか!

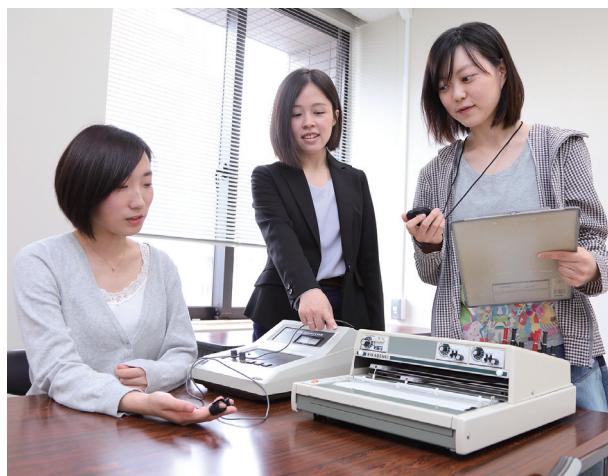
しかし、授業中の説明だけでは釈然としないことがあった場合、どうか。担当の先生にさらに質問したり、関係する本や論文を読んでみることも大切です。もし、それでも疑問が残ってしまったら、誰がその疑問に答えてくれるでしょう。

誰も答えてくれないなら、自分で答えを出そう!

“自分で出した問いに、自分で答える”……これが研究です。1年次の心理学概論や○○心理学、基礎演習などの時間は、単に過去の研究者の成果を受動的に吸収するだけのものではなく、自分の中の疑問を熟成させる時でもあるのです。

2年次

いよいよ心理学研究のための本格的トレーニングが始まります。



○心理学実験

毎週、基礎的な現象に関して実験を行い、得られた結果(データ)からどのように結論を導き出すのか、そのプロセスを学習します。そして、それをいかにして論文の形にまとめるのか、を学び、その実験種目の「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」をレポートにまとめて提出します。



○心理統計法Ⅰ・Ⅱ

実験や調査等で得られた数値データをいかにして処理し、分析し、結論づけるのかを学びます。授業では、講義だけでなく、パソコン上で実際の数値例を用いた実習を行いながら進めます。3・4年次になった時に、自分の研究データを自分で処理することができるようになることを目指します。

必修科目 心をめぐる諸問題、心理統計法Ⅰ・Ⅱ、心理学実験、心理学研究法

選択必修科目 心理学応用演習

選択科目 公認心理師の職責 他

先生からのメッセージ

こうしたトレーニングを積んで2年次が修了すると、みなさんはいかに心理学科生という雰囲気を感じることになるでしょう。

3年次

実験、演習、さらに幅広い専門科目を学ぶとともに、関心を持ったテーマについての研究をスタートします。



○特別研究演習Ⅰ・Ⅱ

学生一人ひとりが専任教員のもとで、自分の関心に従って設定した心理学上のテーマに関して研究します。具体的には、資料研究、実験・調査企画、予備的データ収集、結果の処理を行い、最終的に1本の論文としてまとめます。



※この授業は、4年次での「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」の準備段階であり、提出されたレポートの達成度により、4年次で卒業論文を作成することが認められます。

◆研究プロセス

「特別研究演習Ⅰ・Ⅱ」の目的は、研究の全プロセス(下図)を見とらし、それを遂行できるようにすることにあります。

問題を明らかにするために必要な研究計画を立てる

収集したデータを統計的な方法で処理する

そこから、最初に立てた問題に対して何が言えるかを考察する

その他に、心理検査法や心理療法等に関する実習も用意されており、事例研究という研究方法も学びます。

必修科目 特別研究演習Ⅰ・Ⅱ

選択科目 心理演習A～I、心理実習(臨床心理コース) 他
各種実習、演習科目、講義科目

先生からのメッセージ

仮説を立てて研究を行っても、自分の思った通りの結果が得られないことがあります。でも、そのような時こそ、自分の思考力を鍛えるチャンスなのです。

4年次

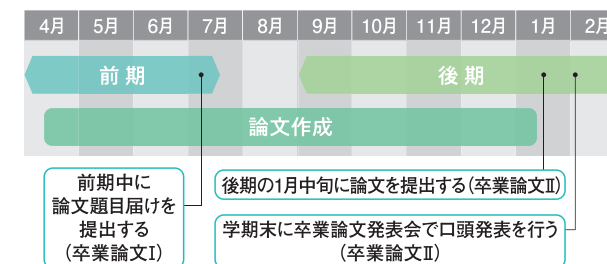
4年間の集大成としての、卒業研究(選択必修)を中心に取り組みます。



○卒業論文Ⅰ・Ⅱ

卒業論文を作成するにあたっては、「特別研究演習Ⅰ・Ⅱ」と同様、専任教員の指導のもとで研究を行います。4年間の学習の総仕上げとなる卒業論文ですので、自分で納得のいくものに仕上げてください。

◆卒業研究スケジュール



選択必修科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ

選択科目 実習・演習科目、講義科目

先生からのメッセージ

4年次は就職活動と並行して、これらのスケジュールをこなすことになるため、4年次生になってから論文テーマを考え出すのでは間に合いません。3年次生の時点から十分計画しておきましょう。

体系的なカリキュラムで 心理学の基礎力・応用力を身につけます。

一般心理コース		卒業要件単位数<一般心理コース>	卒業要件単位数<臨床心理コース>
多様な進路に向けて自由度の高い授業選択をするコースです。 興味のある分野を無理なく学べるカリキュラム体制です。		学科科目 58単位 (必修22単位・選択必修36単位)	学科科目 79単位 (必修63単位・選択必修16単位)
外国語科目・外国語Ⅰ		10単位	外国語科目・外国語Ⅰ 10単位
青山スタンダード科目		24単位	青山スタンダード科目 24単位
自由選択科目		36単位	自由選択科目 15単位
合 計		128単位	128単位
臨床心理コース			
公認心理師や臨床心理士をめざす人のためのコースです。 資格取得に向けてのスムーズな指導を行うカリキュラム体制です。 (2021年度入学生から臨床心理コースに人数制限を設けます。 【2021年度の人数制限は見送りしました。】)			

			1年次	2年次	3年次	4年次
学 科 科 目	I 群	基礎科目・哲学科目	◎心理学概論 ◎心理学基礎演習 ◎心理統計基礎	◎心理学研究法 ◎心理統計法Ⅰ ◎心理学実験 ◎心理統計法Ⅱ ◎心をめぐる諸問題	心理統計法Ⅲ 心の哲学Ⅰ 心の哲学Ⅱ 質的研究法演習	
	II 群	心理学領域講義科目 (発達心理学・認知心理学・ 社会心理学領域 ほか)*		■認知心理学A(知覚・認知心理学) ■認知心理学B(学習・言語心理学) ■感情・人格心理学 ■神経・生理心理学 ■社会心理学A(社会・集団・家族心理学A) ■家族心理学(社会・集団・家族心理学B)	■発達心理学Ⅰ ■発達心理学Ⅱ ■障害者・障害児心理学	
	III 群	心理学領域講義科目 (発達心理学・認知心理学・ 社会心理学領域 ほか)	認知心理学概論 発達心理学概論 社会心理学概論	社会心理学B(応用社会心理学)	学習と教育の心理学	
	IV 群	臨床心理学領域講義科目*	■臨床心理学概論Ⅰ ■臨床心理学概論Ⅱ	心理的アセスメントA 心理的アセスメントB 心理学的支援法A ■健康・医療心理学 ■教育・学校心理学 ■精神疾患とその治療 心理学的支援法B ■福祉心理学 ■人体の構造と機能及び疾病 ■司法・犯罪心理学 ■産業・組織心理学 ■関係行政論	認知心理学特講A 社会心理学特講B 心理学特別講義C 認知心理学特講B 障害者・障害児の教育と医学 心理学特別講義D 発達心理学特講A コミュニティ心理学 心理学特別講義E 発達心理学特講B 心理学特別講義A 心理学特別講義F 社会心理学特講A 心理学特別講義B 心理学特別講義G	
	V 群	臨床心理学領域講義科目	グループ・アプローチ 臨床地域援助	臨床心理学特講A 心理面接法A 臨床発達特講A 臨床心理学特講B 心理面接法B 臨床発達特講B 芸術療法 相談心理学A 臨床発達特講C 芸術療法演習 相談心理学B 精神保健福祉		
	VI 群	臨床心理学領域実習・ 演習科目	■心理実習事前指導	心理演習A 心理演習E 心理演習Ⅰ 心理演習B 心理演習F 心理実習 心理演習C 心理演習G 心理演習D 心理演習H		
	VII 群	演習科目	◎心理学応用演習		心理学原書購読A 心理学原書購読B 心理学原書購読C	
	VIII 群	特別研究および卒業論文		哲学文献購読演習Ⅰ 哲学文献購読演習Ⅱ	◎特別研究演習Ⅰ ◎特別研究演習Ⅱ	卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ

*第Ⅱ群・第Ⅳ群は、心理学領域講義科目・臨床心理学領域講義科目のうち、国家資格「公認心理師」受験に必要な科目です。

外国語科目(外国語Ⅰ)	Comprehensive English ⅠA Comprehensive English ⅠB Oral English ⅠA Oral English ⅠB	Comprehensive English ⅡA Comprehensive English ⅡB Oral English ⅡA Oral English ⅡB Academic Writing A Academic Writing B
青山スタンダード科目	フレッシュャーズ・セミナー ウェルカム・レクチャー キリスト教理解関連科目 人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目 言葉の技能 身体の技術 情報の技能 キャリアの技能	
自由選択科目	学科科目および青山スタンダード科目の必要単位以上の履修。 教育学科および他学部開講科目を選択して学べます。	

■印は臨床心理コース必修科目、◎印は一般心理・臨床心理両コースとも必修科目 科目名称および年次配置などは変更される場合があります。

心理学科必修科目(両コース共通)と研究方法についての科目	
下記の学科必修科目を通して、心理学のこれまでの歩みと基本的な知見、研究方法を学びます。	
心理学概論 心理学の成り立ちと歴史やその展開と、人の心の基本的な仕組みや働きについて概要を学びます。心を測定する方法はどこまで進んだのか、現在どんな心理学の応用分野があり、どのような社会的要請があるのかについて理解することを目指します。	心理学応用演習A～C 各分野の心理学の研究論文や解説書を輪読し、これまでに蓄積された心理学の知見を理解するとともに、問題の立て方や研究手法、態度を学びます。A～Gで扱う内容は担当教員の専門領域によって異なり、受講生は自分の興味に従って受講する分野を選択します。
心理学基礎演習 代表的なテキストを用いて、心理学の基礎知識や研究方法を学習します。日常現象の考察、実証研究の手順と結果の解釈、理論モデルの構築についての演習を行います。	心理統計基礎 学問的基礎を学ぶとともに、心理学研究に不可欠な情報処理技能について、1年次では、データ処理の基本的な考え方とスキルを習得します。
心理学研究法 実験、調査、観察、面接など、心理学のさまざまな研究方法について、講義と演習を交えながら学びます。また、研究を行う上での倫理的配慮の重要性についても理解を深めます。	心理学実験 毎週、基礎的な現象に関して実験を行い、得られた結果(データ)からどのように結論を導き出すのか、そのプロセスを学習します。そして、それをいかにして論文の形にまとめるのか、を学び、その実験種目の「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」をレポートにまとめて提出します。
心をめぐる諸問題 心理学担当教員が1～2回ずつ、それぞれの専門領域における最近の研究動向、話題の研究例、あるいは教員自身の研究テーマを取り上げて、オムニバス形式で講演を行います。	心理統計法Ⅰ・Ⅱ 実験や調査等で得られた数値データをいかにして処理し、分析し、結論づけるのかを学びます。授業では、講義だけでなく、パソコン上で実際の数値例を用いた実習を行いながら進めます。3・4年次になった時に、自分の研究データを自分で処理することができるようにすることを目指します。

研究方法については、他に選択必修として、**心理学実験プログラミング**や**質的研究法演習**、**心理統計法Ⅲ**が用意されています。
また、特に外国語(主として英語)の著作を講読する力を集中的に養うための演習科目(**心理学原書講読A～B**)も用意しています。

心理学4領域を積み上げ式に学ぶ科目

認知・発達・社会・臨床の4分野について、年次を追って積み上げ式に学ぶことができるよう、入門となる概論講義、より詳しく学ぶ網羅的講義、特定のテーマに内容を絞って詳細に学ぶ特別講義を用意しています。なお、臨床心理学については、概論の次の段階として、網羅的講義ではなく、細分化された専門科目をより多く用意しています。詳しくは、**【その他の心理学専門講義科目】**を参照してください。

認知心理学概論 認知心理学A(知覚・認知心理学)○ 認知心理学B(学習・言語心理学)○ 認知心理学特講A・B 発達心理学概論	発達心理学Ⅰ・Ⅱ ○ 発達心理学特講A・B 社会心理学概論 社会心理学A(社会・集団・家族心理学A)○ 社会心理学B(応用社会心理学)	社会心理学特講A・B 臨床心理学概論Ⅰ・Ⅱ○ 臨床心理学特講A・B
---	--	--

その他の心理学専門講義科目

さまざまな領域の専門科目を用意しています。両コースともに、公認心理師となるために必要な科目を含む多彩な専門科目から自分の興味・進路に合わせて履修科目を選択することができます(臨床心理コースは、○印のついた科目も必修です)。また、時代の要請に合わせて心理学や臨床発達に関わるトピックを取り上げ、学内外の専門の講師が講義を行う**心理学特別講義A～G**と**臨床発達特講A・B・C**も用意しています。

感情・人格心理学 ○ 神経・生理心理学 ○ 家族心理学(社会・集団・家族心理学B) ○ 障害者・障害児心理学 ○ 学習と教育の心理学 認知科学概論 障害者・障害児の教育と医学 コミュニティ心理学 公認心理師の職責 ○	心理的アセスメントA・B 心理学的支援法A・B 健康・医療心理学 ○ 福祉心理学 ○ 教育・学校心理学 ○ 司法・犯罪心理学 ○ 産業・組織心理学 ○ 人体の構造と機能及び疾病 ○ 精神疾患とその治療 ○	関係行政論 ○ グループ・アプローチ 臨床地域援助 芸術療法 芸術療法演習 心理面接法A・B 相談心理学A・B 精神保健福祉
---	---	---

心理的支援に関わる演習・実習科目

各講義で学んだ心理学の知識や技能を実践の場で活用できる技能と態度を養うために、**心理演習A～Ⅰ**と**心理実習事前指導**、**心理実習**を用意しています。なお、心理実習は、臨床心理コースの人のみ履修が認められています。

心理演習A～Ⅰ 臨床事例を用いた検討や、グループでのディスカッションなど、体験的に進めます。そして、面接技法やアセスメント技法など、公認心理師として必要な技能の修得を目指します。臨床心理コースの人は、心理演習を1クラス以上履修することが求められます。	心理実習事前指導 ○、 心理実習 保健医療分野(精神科病院・クリニック)、福祉分野(乳児院・児童心理治療施設)、教育分野(学校ほか)などの学外の実習施設に出向き、被支援者や専門スタッフとの関わりを体験します。心理実習は臨床心理コースの必修ではありませんが、公認心理師の受験資格を取得するためには履修が必要です。
---	--

哲学領域の講義・演習科目

心理学科には、哲学の講義・演習として、**心の哲学Ⅰ・Ⅱ**、**哲学的認識論Ⅰ・Ⅱ**、**哲学文献講読演習Ⅰ・Ⅱ**が用意されています。これらの科目を通して、実証的な心理学とは異なるアプローチで人の心に迫るとともに、哲学的な思考の訓練を通して考え方の幅を広げます。なお、3年次までに哲学的認識論と哲学文献講読を履修した人は、4年次に哲学で卒業論文を書くことができます。

心理学科ならではのカリキュラムを紹介します。

発達心理学Ⅰ・Ⅱ

2・3年次 第Ⅱ群

かつては、大人になることが発達のゴールであると考えられていました。しかし、人生80年といわれる現在では、発達についてのとらえ方も大きく変わりました。発達とは、何かができるようになること(成長)だけでなく、足踏み(停滞)したり、できなくなったりする(衰退)ことを含む、多面的なプロセスです。赤ちゃんはどのようなことを分かっているのでしょうか。子どもはどのようにして他者の感情を理解していくのでしょうか。青年期に悩むのはなぜでしょうか。親になると、人はどのように変わるのでしょうか。老いの心とはどのようなものなのでしょうか。このように発達心理学では、生涯にわたって人がどのような心の変化を経験するのか、そのプロセスやメカニズムについて学んでいきます。



教育・学校心理学

2・3年次 第Ⅳ群

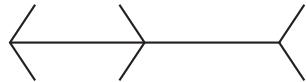
学校の荒廃や学級崩壊などの現状に対し、1995年度から文部省(現・文部科学省)はスクールカウンセラー派遣事業を開始しました。スクールカウンセラーは、児童・生徒、先生、保護者へのカウンセリングや、現場で発生する事態に即応した介入体制の作成、学校を取り巻くすべての人々への教育プログラム講演やワークショップ開催などを担当します。また、医療機関や保健所、福祉施設や相談機関と連携した協力体制の強化も重要な仕事です。ここでは、こうしたスクールカウンセラーの視点から、学校をめぐるさまざまな問題への取り組みを検討していきます。



心理学実験

2年次 第Ⅰ群

みなさんは、錯覚という現象を知っているでしょう。現実の通りに知覚していないことですね。でもそれは、日常、まれなことでもないのです。むしろ私たち人間は、条件によっては、世界をありのまま(物理的次元に正しく対応して)とらえていないことが多いのです。それでは、私たちは周りの事物をどのようにとらえているのでしょうか。心理学における知覚実験は、このような問題を明らかにしようとしています。この授業では、視覚、聴覚、触覚において、どのような条件で錯覚が起こりやすいのかを実験で検討します。



さかさ眼鏡という器具があります。この眼鏡をつけると、周りがすべて逆さまに見えます。そのとたんに、私たちは歩くことも、字を書くことも、コップに水を注ぐことも、身体のバランスをとることも、周りにあるものをつかむこともできなくなってしまいます。私たちの生活は、「見ること」にとても依存しているのです。ところが、さらに驚くことに、この眼鏡を長期間つけていると、逆さまの世界になって、いまあげたようなことができるようになります。私たちは、外界を脳で「見」ており、その脳はとても適応力、学習力のすぐれたものなのです。授業で、しばし逆さまの世界で遊びます。



うそ発見器についても、みなさんは聞いたことがあると思います。これは、人間は緊張したり精神作業をしたりすると皮膚に微量の汗をかくので、それを応用して心理測定を行おうとするものです。正式にはGSRといいますが、この授業でも簡単なGSR測定実験を行っています。みなさんは、機械を(自分を?)だますことができるでしょうか?



臨床心理学概論

1・2年次 第Ⅳ群

臨床心理学は、心の問題を抱えて困っている人に対して援助を行う実践的な学問です。ストレスが多い現代社会では、うつ病や心身症、不登校、職場不適應などのさまざまなかたちで心の問題が起こっています。こうした現状を具体的に把握しつつ、各年代に特徴的に生じる心理的課題や危機について学習し、心の問題が発現するまでのメカニズムについて理解を深めていきます。また、心理検査や査定面接を通して臨床実践における見立ての方法についても概観します。さらに、カウンセリングなどの心理的援助技法を学んでいくことで、臨床実践の素養を培うとともに、日常場面での対人コミュニケーション能力を高めていくことにもつながっていきます。心の世界の奥深さを探求し、相手の気持ちを本当の意味で理解していくことの難しさを実感していきましょう。



心理演習B

3・4年次 第Ⅵ群

学生同士でペアを組み模擬的にカウンセリングを行うトライアル・カウンセリング実習、8人程度の小グループ状況を用いたグループ・アプローチ実習などを行う。他の参加者の前で自分自身を語られることが必要となる。同時に、他者の話を傾聴し、理解を深めることが期待される。本当に人の話を理解するためには、自分自身の枠組みが変化することを自分に許容できることが必要となる。深く眼前の他者の語りに耳を澄ませることは、深く自分自身の心に耳を澄ませることでもある。そうした作業は、いざやってみようとする、いろいろな不安が沸き起こってきてしまう。不安はたちどころに行動によって打ち消されて、防衛されてしまう。そうしたプロセスは、「相手のために」「よかれと思って」という枠組みで行動化され、ほとんど本人自身にも気づかれない。だから、他者の不安な内面を受け止めることは、言葉でいうほど簡単なことではない。どうしても通常の、アドバイスするような、日常会話の延長線上の対応となってしまう。どうやってお互いが少しでも深い自分の感覚やフィーリングに到達できるのか、そのための自分なりの在り方をみつけていってほしい。

司法・犯罪心理学

3・4年次 第Ⅳ群

近年、少年の非行、犯罪が大きく報じられることが多くなっています。では、少年はその時、なぜ、そのようなことをしたのでしょう。更正するためにはどのような処遇・教育をすれば良いのでしょうか。このような課題に答えるには、少年の人格形成と環境を含めた全体的視点から理解すること、本人自身が現実と直面して気づきや内面化ができるように援助することが必要です。この授業では、臨床心理学、社会学、教育学、精神医学など隣接分野による臨床的アプローチで理解する枠組みについて、具体例をもとに検討していきます。また、非行からの快復のため、どのように実践活動したらよいか考えていきましょう。

社会心理学A

(社会・集団・家族心理学A)

2・3年次 第Ⅱ群

社会心理学は、「人は社会的動物である」という視点から、「社会」=「周りの人」が個人の心理にどのように影響するかを分析する学問です。日常生活の中でさまざまな社会的行動は、コミュニケーションをしたり、人間関係を築いたりするという対人的なレベルで生じる心理から、リーダーシップや組織運営という集団レベルで生じる心理、世論や文化の影響など不特定多数という意味での社会レベルで生じる心理まで、多様な視点から分析できます。理論や研究事例を学ぶことで、社会の問題を理解・解決への糸口を探っていきましょう。



心の哲学Ⅰ・Ⅱ

3・4年次 第Ⅰ群

人間には、そしておそらくある種の動物にも、心というものがある。ところで、その心は、今日の科学的知見によれば、脳という特別の物体が生み出しているらしい。しかし、特別だといっても物体にすぎない脳が、なぜ心という非物質的なものを生み出せるのだろうか。そのことを探究しようとしても、実はそれを一般的に探究する方法は存在しない。なぜなら、われわれはみな自分自身の心しか体験できないから、脳と心の一関係を一般的に知りうる立場には立てないからである。でも、それならなぜわれわれは、心は脳の働きが作り出しているという一般的な知識を持っているのだろうか? ひょっとしたら、それは錯覚なのではあるまいか?

心理学特別講義C

(ノンバーバル・コミュニケーション)

3・4年次 第Ⅲ群

人間は「ことば」を使う動物です。その「ことば」によって私たちはお互いのコミュニケーションをとっています。でも、実は私たちは「ことば」によらないコミュニケーションを頻繁に行っているのです。あなたが誰かと話をすると考えてみてください。自分が話す時、相手のどこをどのくらい見ますか? 相手が話すのを聞く時はどうですか? 相手と目を合わせますか? どんな表情をしますか? 笑顔を浮かべますか? 声の高さや話す早さはどうですか? 相手の話にうなずきますか? 首を傾けますか? 身体を前に乗り出しますか? 手はどこにいますか? ...このようなことから(ことば以上に)、私たちはお互いの気持ちを読み取っているのです。

「目は心の窓」ともいいますね。



では、どのように私たちはことばに表せない情報を発信し、また受信・解読しているのでしょうか。この授業では、このような、ことばによらないコミュニケーションについて検討しましょう。



この写真の人は、この仕草や表情で、あなたに何を伝えようとしているのでしょうか?

社会心理学特講B(広告心理学) 3・4年次 第Ⅲ群

社会心理学の「コミュニケーション」や「説得」の分野における理論や研究成果を応用して、広告の効果について考える授業です。講義では、まず、広告効果の心理プロセスについて、効果モデルや情報処理の視点から学びます。さらに、効果測定、ブランド、広告媒体比較、インターネット、クチコミなどの個別のテーマにおいて、広告の効果について考えます。みなさんの周りにあふれている広告が、どのような意図で制作され、どのような効果を与えているのかについて、理論的に考えることができるようになると、広告の見方が変わってくるかもしれません。



情報量が多い広告と少ない広告は、どのような場合に、どちらのほうが、効果的なのでしょうか？

認知心理学特講A(音楽心理学) 3・4年次 第Ⅲ群

音楽心理学は、音楽と私たち人間との関わり合いを研究する学問です。扱う研究テーマは、音楽における情動、音楽と言語、音楽の記憶・認知、音楽の聴き方、音楽演奏の心理、調性、熟練した音楽家の知覚、演奏の解釈、楽音の知覚、音色の探究、聴き手と音響空間、リズムとテンポ、音程・音階・調律、音の高さの知覚、音楽における音の高さの構造、音楽能力、メロディーの認知、絶対音感、音痴、等々多岐にわたっています。この授業では、音の世界の中ではどのようなことが起こり、私たちはそれらとどのように関わっているのかなど、はじめに音についての基礎知識を学びます。そして、音楽を用いた実験がどのように行われ、これまでどのようなことが分かったのかについて理解することを目指します。さまざまな音の世界を体験しましょう。



家族心理学 (社会・集団・家族心理学B) 2・3年次 第Ⅱ群

核家族化、少子高齢化、晩婚化、こうした時代の流れを受けて家族形態は変化し、多様化してきています。人間関係の基盤である家族について考えていくことは、人間心理への理解を深めていく大きな手がかりになります。配偶者選択から出産・子育て、仕事と家事の両立、親族との付き合い、子どもの独立や配偶者との別離、親の介護など、現代の家族が抱える具体的なテーマを取り上げていきます。また、親子面接や家族面接の実践例を通して、家族内で起こっている親子関係、きょうだい関係、夫婦関係という複雑なコミュニケーションについての理解を促します。さらには、家族をひとつのシステムとしてとらえるような考え方も提示し、心の問題を多角的にとらえる思考の柔軟性も養っていきます。さまざまなライフスタイルや価値観に触れる中で、一人ひとりがより生きやすい社会にしていけるための糸口を一緒に探っていきましょう。



いろいろなギモンを解き明かす “心理学の知恵” を使いこなそう！

毎日の暮らしに結びついた、さまざまなギモン。
現代の社会をより良く生きていくために、
心理学の知識を実践してみましょう。
そして、まだ解答が得られないギモンについては、
あなた自身が自分で研究しましょう。

例えば・・・

ギモン 1

女性にとって化粧は欠かせません。私たちは他人や自分の顔から年齢、性別のような属性ばかりでなく、健康状態や感情や欲求、性格まで読もうとしています。化粧は、そのような顔のコミュニケーションにおいてどのような役割を担っているのか。他人は「私」の化粧から「私」をどのように評価するのか。化粧によって、女性は幸せになるのか。

ギモン 2

私たちは多くの人々との相互関係のなかで働いています。上司や同僚や後輩との協働で仕事する上で、これらの人々との信頼関係が築かれていなければ、仕事の能率も上がりませんし、仕事自体も面白くありません。どうしても、他人を信頼できるようになるのか。また、上司はどうしたら部下を気持ちよく働かせることができるのか。

ギモン 3

私たちは、他者との間で良好なコミュニケーションが欠かせません。コミュニケーションはさまざまなメディアを介して行われますが、特に成長の著しいメディアとして、インターネット、携帯電話などがあげられます。これらは、人々の生活にとって非常に便利なものですが、反面、本当に人の心をつないでいるのかと疑問に思う側面もあります。多様な機能を持つメディアは、私たちの生活や心理にどのような影響を与えているのか。

ギモン 4

現代社会において、自動車は素晴らしく快速で快適な移動手段です。ところが事故やトラブルも絶え間がありません。こんなに気をつけているのになぜ事故が起きるのか。普段はおとなしい人が車を運転するとなぜ歩行者にけたたましくクラクションをならすのか。お酒を飲むと運転にどんな悪影響が出るのか。運転に向かない人っているのか。

ギモン 5

私たちは、家族以外の人とも良好な人間関係を築きます。その代表といえば、友人や恋人です。つまり、私たちは誰かを好きになり、仲良くなるのです。では、私たちはどのように人を好きになるのか。そして、どのようにその好きという気持ちを維持するのか。

このようなギモンに答えていくのが、心理学です。
さあ、一緒に学んでいきましょう！ ▶▶▶

ダンスを踊ることがこころにどんな影響をおよぼすの？

疑問

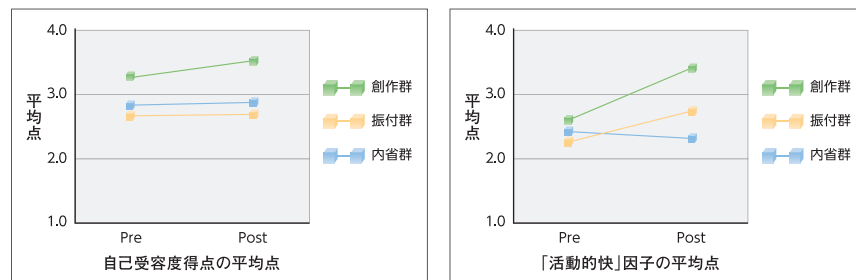
身体を動かすことで、気分がすっきりしたり、解放された気持ちになったりすることは、私たちが日ごろなんとなく感じていることですが、本当でしょうか？ また、ダンスをする時に、そのときの気持ちで即興で踊ると、決められた振り付けで踊るのでは、心理的な影響に違いがあるのでしょうか？

実験

大学生の男女を実験参加者として、即興的なダンスを踊る群と振り付けを提示して踊る群、そして身体を使わずに言葉だけで表現する群に分けて、それぞれの群に課題前後にこころの状態を調べる質問紙を行いました。

結果

即興で踊る群は、他の群に比べて「自分はこれで良い」と自分を受け入れる気持ちが高まりました。そして、ダンスをした群はしなかった群に比べて、生き生きとした気分が高まり、不安や落ち込みが減少しました。これらのことから、ダンスを踊ることで気分が改善し、さらに自由で創作的な身体表現を行うことで、自分自身を肯定的にとらえられるように変化していくようです。言葉では表現しきれない気持ちを身体で表現することは、気分転換に役立つものと思われま。



大学生の友人関係と自分らしさはどう関連しているのか？

疑問

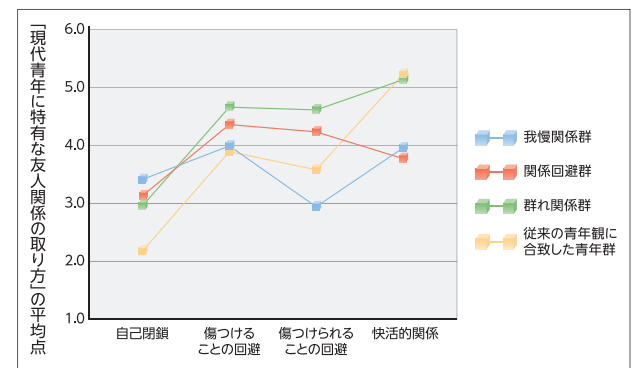
青年期は大人と子どもの中間に位置する時期であると考えられます。Erikson, E. H.は青年期を内的外的自分らしさ、つまり「自我同一性、アイデンティティ」が確立される時期であると考えました。しかし、青年期にそうした自分らしさや自己確立を達成できることと友人関係の性質との間にはどのような関連があるのでしょうか。

実験

「現代青年に特有な友人関係の取り方に関する尺度項目」（「友人関係尺度」）と「自分らしさ（自我同一性、アイデンティティ）尺度」を用いて、大学生の友人関係のあり方と、自分らしさの確立の感覚にどのような関連があるのかを検討しました。

結果

友人関係のあり方の特徴を検討するために、友人関係尺度の得点から、回答者を分類した結果、「我慢関係群」、「関係回避群」、「群れ関係群」、「従来の青年観に合致した青年群」という4つの群に分類できることが分かりました。「従来の青年観に合致する青年群」は、「自分らしさ（自我同一性、アイデンティティ）」において全体的に適応的な特徴がみられました。一方、現代的朋友人関係を取る青年（「関係回避群」「群れ関係群」）や本研究で新たに見出された青年（「我慢関係群」）は不適応的な傾向がみられました。つまり、傷つきのを恐れるあまり、過度に円滑で表面的な関係を志向する関わり方をする人や、友人との深い関わりを回避する友人関係を取る人は、自分らしさ（自我同一性・アイデンティティ）の確立感が低いことが分かりました。一方、積極的に友人との快活な関係を志向する友人関係を取る人は、自分らしさ（自我同一性・アイデンティティ）の確立感が高くなることが明らかになりました。



ストレスで皮膚温は上がるのか下がるのか？

疑問

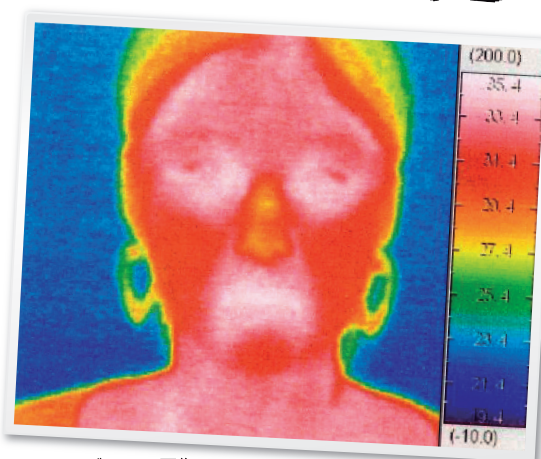
私たちは日常、不安になったり、怒ったりすることもあれば、反対に安心したりリラックスしたりします。このようなことは感情として経験しているわけですが、実は、これらは身体の変化も伴っています。不安や怒りを経験しているとき血流量は減少し皮膚の温度が下がり、安心している時は血流量が増加して皮膚の温度が上がるといわれていますが、状況によっては皮膚温の上昇、下降は相反するという説もあります。そこで、皮膚温を測定し映像として表現することができるサーモグラフィを用いて、ストレス時の皮膚温の変化を調べてみました。

実験

男女大学生を実験参加者として、精神的に負荷を与える暗算課題と、対人的な不安を感じさせるスピーチ課題を与え、課題を行っている時の顔面（頬）の温度を測定しました。

結果

まず性別に関しては、全般的に男性の方が女性よりも皮膚温は高いようでしたが、課題の種類による変動は女性の方が顕著でした。ストレス課題に関しては、どちらも安静にしている時よりも皮膚温は上昇し、またスピーチ課題の時の方が暗算課題の時よりも皮膚温が高い傾向が見られました。女性の方が基礎体温が低いために僅かな精神的刺激に敏感に反応した結果が皮膚温の変化として現れた可能性があります。別の見方をしますと、女性の方がストレス反応が高いのかもしれない。



サーモグラフィの画像

ヒトは対象のどこを見ているのだろう？

疑問

左の絵はどのように見えますか？首にチョーカーをした[若い女性]の横顔をやや後ろから見たように見えますね。でも、この絵をずっと見てみると、今度は[老婆]の横顔に見えてきます。いままで[若い女性]の耳に見えていたところは[老婆]の目、首のチョーカーは老婆の口になっています。[若い女性]と[老婆]が同時に見えることはありません。このような絵を多義図形と言っています。

実験

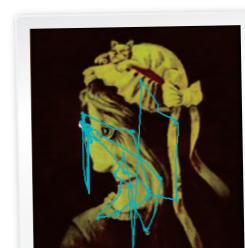
では、[若い女性]が見えている時、[老婆]が見えている時、私たちの目はこの絵をどのようにとらえているのでしょうか？アイマークレコーダーを使って調べてみました。



アイマークレコーダーとは・・・
ヒトが視野の中の、どこをどのくらい見ているかを測定・記録することができる装置です。

結果

左上の図が[若い女性]が見えている時の視線の動き、右上の図が[老婆]が見えている時の視線の動きです。[若い女性]が見えている時は、顔の輪郭（頬の線）から首にかけて視線が動いているのが分かります。私たちはものの輪郭線を認識することで、対象が何かを理解しているようです。一方、[老婆]が見えている時は、目と頬骨、口に視線が集中しています。その部分を耳ではなく、目とみること、この絵が[老婆]に見えるわけです。対象に目をみつけると、ヒトは顔を認識するのです。対象のどのような特徴を見るかで、対象を何と認識するかが違ってきます。



[若い女性]が見えている時の視線の動き



[老婆]が見えている時の視線の動き

SNSで会った人とのコミュニケーションは事前情報で変わる？

疑問

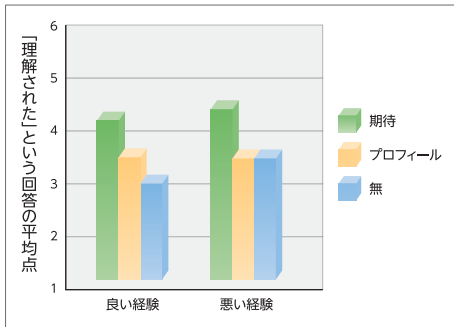
最近、TwitterやInstagramなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を使って、知らない人とコミュニケーションすることは珍しくありません。ただ、「知らない人」とは言っても、事前に相手のプロフィールや普段の様子はわかります。これらの事前情報によって、その後のコミュニケーションは変わるのでしょうか？

実験

コンピューターのチャット機能を使って、顔が見えない相手と「最近経験した良いこと・悪いこと」について会話してもらうという実験を行いました。実験参加者は、相手の情報を何も教えられない群（無群）、相手のプロフィールを教えられる群（プロフィール群）、相手が「外交的で人の気持ちがわかる人」だと教えられる群（期待群）の3つに分けられ、会話の後で質問紙に答えました。

結果

すべての群のチャット相手は同じ人であり、同じように会話をしているにも関わらず、期待群、つまり相手に関する事前情報から「良いコミュニケーションができそうだ」と期待できる場合に、「自分のことを理解された」という回答の平均点が高くなることがわかりました。ただし、実際には理解の正確さには群間で差はありませんでした。ほかにも、期待群は「相手が会話に反応してくれた」「自分のことを話せた」と思うこともわかっています。TwitterやInstagramでは、個人的な情報を載せなかったりプロフィールだけを載せるのではなく、コミュニケーションに関わる良い面を載せておくと、相手の人がその「良い面」に期待し、良いほうにバイアスをかけて評価してくれるので、関係をスムーズに始められるという効果がありそうです（バイアスが良いことだとは言いきれないのですが…）。



幼児は誰に何を「みて」ほしいのか？

疑問

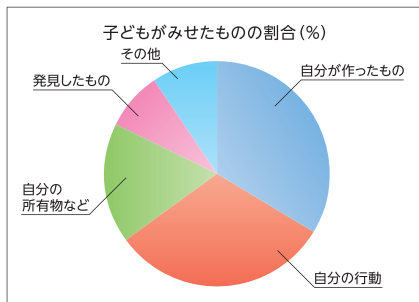
幼児と一緒に過ごしている身近な大人や友だちに、「みて!」という言葉をよく向けます。「みて」という子どもの発話には、相手に自分のことを認めてほしい、という承認を求める気持ちや、同じ物を見て、自分が感じたことを相手にも知ってもらいたい、という共感を求める気持ちなど、さまざまな思いがこめられています。では、4、5歳児は、何を、誰に「みて」ほしいと訴えるのでしょうか。また、何を意図して「みて」という言葉を発しているのでしょうか。

実験

幼稚園の年長クラス・年中クラスにおいて、自由遊びの場面と設定保育（工作）の場面での子どもの行動を、約47時間観察しました。そして、「みて」という発話が聞かれた際に、誰が、どのような状況で、何を、誰（友だち・先生・観察者）に対して、「みて」と言ったのかを記録しました。

結果

収集した109事例の中で、子どもが「みて」と訴えたものは、①自分が作ったもの（製作物）、②自分の行動、③自分の所有物や自分自身、④発見したもの、の主に4つに分けられました。このうち、子どもは、先生には自分が作ったものを、友だちには自分のおかしな行動を、観察者には自分の所有物や自分自身を「みて」と訴えることが、他の相手に比べて多い傾向がありました。このことから幼児は、相手によって異なる意図をもって「みて」という言葉を発しており、先生には承認を求め、友だちには「面白い」という気持ちの共有を求める傾向があるのではないかと考えられます。



Faculty members 教員紹介

※教員組織は2020年度のものです。



入不二 基義
Irifuji Motoyoshi

担当分野 哲学
担当科目 哲学的認識論Ⅰ・Ⅱ、哲学的文献講読演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 「私」論・時間論・相対主義論・運命論・現実性など
研究テーマ 「ある/ない」「アクトチュアル/リアル」「過去・現在・未来」「私・私たち・他者」など
著 作 物 ①「現実性の問題」（筑摩書房、2020）
②「あるようにあり、なるようになる 運命論の運命」（講談社、2015）
③「足の裏に影はあるか?ないか? 哲学随想」（朝日出版社、2009）
④「相対主義の極北」（ちくま学芸文庫、2009）
⑤「時間と絶対と相対と」（勁草書房、2007）



上田 琢哉
Ueda Takuya

担当分野 臨床心理学
担当科目 公認心理師の職責、グループ・アプローチ、臨床心理地域援助、心理実習、特別研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 臨床心理学、教育相談学
研究テーマ ①心理療法におけるイメージの働きに関する研究
②スクールカウンセラーの抱える課題に関する研究
著 作 物 ①「自己受容概念の再検討―自己評価の低い人の“上手なあきらめ”として―」（心理学研究、1996）
②「自己意識研究の現在」（共著 ナカニシヤ出版、2002）
③「『見る』意識と『眺める』意識」（創元社、2019）



遠藤 健治
Endo Kenji

担当分野 社会心理学、感情心理学、心理統計学
担当科目 心理学統計法Ⅲ、社会心理学特講A、社会心理学B、特別研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 社会心理学、被服心理学、教育心理学
研究テーマ ①「装い」の社会心理
②表情によるコミュニケーション
著 作 物 ①「対人関係を通しての自己理解ワークブック ひとのこころとふれあう私」（編著、培風館、2013）
②「例題からわかる心理統計学」（培風館、2002）
③「Excel、SAS、Spssによる統計入門 改訂版」（培風館、2003）



小俣 和義
Omata Kazuyoshi

担当分野 臨床心理学、心理査定学
担当科目 心理学的支援法、社会・集団・家族心理学、心理的アセスメント、特別研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 臨床心理学
研究テーマ ①親子面接におけるセラピストの有効なかかわり方
②心理検査による病態水準の見極め方
③心理臨床初級者が抱える課題について
④災害時の心理支援
著 作 物 ①「親子面接のすすめ方-OD版」（金剛出版、2015）
②「緊急支援のアウトリーチ」（編著、遠見書房、2017）
③「こころに寄り添う災害支援」（金剛出版、2017）
④「公認心理師の職責」（遠見書房、2018）
⑤「公認心理師分野別テキスト」（創元社、2019）
⑥「こころのケアの基本-増補版」（編著、北樹出版、2020）



北村 文昭
Kitamura Fumiaki

担当分野 臨床心理学、環境心理学
担当科目 教育・学校心理学、心理学特別講義A、心理演習A、特別研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 実験心理学、臨床心理学
研究テーマ ①身体の姿勢と視覚的環境の相互作用について
②プリーセラピーにおける効果的活用と応用可能性について
著 作 物 ①「目標設定のための見立て」（青山学院大学心理臨床研究、2014）
②「プリーセラピーの養成・訓練にみられる『まじわり』―プリーセラピーを教える者と教わる者の対話―」（プリーセラピーネットワーク、2015）
③「プリーサイコセラピーの原点とは『問うこと』ではないだろうか」（プリーサイコセラピー研究、2017）



坂上 裕子
Sakagami Hiroko

担当分野 発達心理学
担当科目 心理学基礎演習、発達心理学Ⅰ・Ⅱ、質的研究法演習、特別研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 生涯発達心理学、臨床発達心理学
研究テーマ ①乳幼児期における社会情動発達
②親としての発達
③育児・保育現場での発達支援
著 作 物 ①「子どもの反抗期における母親の発達」（風間書房、2005）
②「はじめての質的研究法 生涯発達編」（編著、東京書籍、2007）
③「問いからはじめる発達心理学―生涯にわたる育ちの科学」（編著、有斐閣、2014）



繁柁 江里
Shigemasu Eri

担当分野 社会心理学
担当科目 社会心理学概論、社会・集団・家族心理学、心理学応用演習、特別研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 社会心理学、対人コミュニケーション
研究テーマ ネガティブ・フィードバックが対人関係、職場、消費者行動、異文化適応に与える効果
著 作 物 ①“Face threatening act avoidance and relationship satisfaction between international students and Japanese host students”（共著、International Journal of Intercultural Relations、2006）
②「ダメ出しコミュニケーションの社会心理」（誠信書房、2010）
③「ダメ出しの力」（中公新書、2014）
④「ポジティブおよびネガティブ・フィードバックが部下のコミットメントおよび成長満足感に与える影響」（産業・組織心理学研究、2017）



松田 いづみ
Matsuda Izumi

担当分野 認知心理学、生理心理学、心理統計学
担当科目 心理学実験、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、特別研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 生理心理学、認知神経科学、犯罪心理学
研究テーマ ①人を欺こうとしたときの生理・行動・主観の変化
②認知・感情・動機づけの生体信号による測定
著 作 物 ①「犯罪心理学のための統計学」（共著、誠信書房、2015）
②「生理心理学と精神生理学 第Ⅱ巻 応用」（共著、北大路書房、2017）
③“A concealment-specific frontal negative slow wave is generated from the right prefrontal cortex in the Concealed Information Test”（共著、Biological Psychology、2018）



森脇 愛子
Moriwiki Aiko

担当分野 臨床発達心理学
担当科目 心理学研究法、障害者・障害児心理学、心理実習、特別研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 臨床発達心理学
研究テーマ ①自閉スペクトラム症における対人関係の発達と支援
②発達支援領域での多職種連携協働・多職種連携教育
③障害のある大学生への合理的配慮
著 作 物 ①「自閉スペクトラム パディ・システムスタートブック：仲間づくりとコミュニケーションの支援」（編著、学苑社、2018）
②“Normative data and psychometric properties of the strengths and difficulties questionnaire among Japanese school-aged children”（Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health、2014）
③「大学における発達障害学生支援に携わる教職員の実態調査」（臨床発達心理実践研究、2016）



薬師神 玲子
Yakushijin Reiko

担当分野 認知心理学、知覚心理学
担当科目 心理学実験、認知心理学概論、心理学実験プログラミング、特別研究演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
専攻分野 認知心理学・知覚心理学
研究テーマ ①人間の視覚情報処理
②知覚の学習と注意
③知覚運動学習のプロセス
著 作 物 ①「3次元視空間におけるオブジェクト認知とノイズ処理」（風間書房、1999）
②「視覚と記憶」（共著、オーム社、2012）
③“Are people successful at learning sequences of actions on a perceptual matching task?”（共著、Cognitive Science、2011）

在学生からのメッセージ



「こころ」を学ぶことで、
自分や世界に対するものの見方・
考え方が変わってきました。

心理学科2年 小林 俊介

目で見たり、さわって確かめたりすることができない「こころ」のことを不思議に思ったのが進学のかっけです。現在の心理学は「科学」としての側面が強く、客観性を重視しています。そのために、実験や調査などを重ね、データを統計的に分析することが必要とされています。大学で学問として心理学を学ぶことは、人間を客観的に理解できるようになり、それは自己理解にもつながっていくものだと思っています。今後は、「人と良い関係を築くためにはどうしたらよいだろうか?」など、集団や社会における「こころの働き」について深く学んでいきたいです。少人数でアットホームな本学科で、最も身近で謎に満ちた「こころ」について学んでみませんか。

■2年次の時間割

青山スタンダード科目、他学部科目も含まれています。

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1限			心をめぐる諸問題(前期)	Oral English II A(前期)		
2限	心理学統計法I(前期)		国際関係概論A(前期)	社会心理学B(前期)	Comprehensive English II A(前期)	
3限	公認心理師の職責(前期)		神経・生理心理学(前期)	心理学的支援法A(前期)	家族心理学(前期)	
4限		Academic Writing A(前期)			法学A(前期)	
5限	心理学実験			健康・医療心理学(前期)	発達心理学I(前期)	

※2019年6月時のものです。



学び進めるうちに、
他者の気持ちをもより
考えられるようになりました。

心理学科3年 西貝 佳音

幼稚園の先生や保育士になりたいと思い教育学科を志していましたが、高校時代に出会ったスクールカウンセラーに憧れを抱き、心理学も学びたいと考え、教育学と心理学の両方を学べる本学科を志望しました。1年次は心理学についての知識を幅広く学ぶ授業が多く、特に「心理学概論」では身近な事例を通して心理学を学習しました。現在、履修している「臨床保育学」は、教育・心理両学科で開講され、虐待・ネグレクトなどの問題の他に、過保護・過干渉の問題なども扱い、大きく影響を受けながら学んでいます。卒業研究では、家族関係について考察するつもりです。心理学は掘り下げると興味深く、発見の多い学問だと思っています。

■3年次の時間割

青山スタンダード科目、他学部科目も含まれています。

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1限						
2限	心理学史(前期)		卒業研究I	母子保健(前期)	心理臨床の実践I(前期)	
3限	臨床心理実務倫理論(前期)	広告心理学(前期)	ヨーロッパ史C(前期)	臨床心理学特講	臨床保育学	
4限	教育学特論F(前期)				教育学特論Q(前期)	心理学研究法(前期)
5限					教育学特論P(前期)	

※2019年6月時のものです。



学問的な知識を得るだけでなく、
日常生活にも学びが活き、
聞き手に回る重要性にも気づきました。

心理学科4年 石瀬 結香

スクールカウンセラーの職に就きたいと思ったことと、人間の「心」に興味をもったことから本学科に入学しました。1年次には心理学の基礎を学び、その後、学年が上がるにつれて、専門的な内容になることに、とてもワクワクしました。3年次から始まった卒業研究では「心理的居場所」をテーマにし、最終的には、これまで得られたことを活かして、より独自性のある研究に進化させていきたいと考えています。卒業後は民間企業に就職し、人々の心に寄り添い、不安や心配を取り除く仕事ができればと考えています。本学科で「人の心」という一見ばんやりとしたものを、科学的な手法で分析していくおもしろさにふれてみてください。

■4年次の時間割

青山スタンダード科目、他学部科目も含まれています。

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1限						
2限	心理学史(前期)		心身医学(前期)	母子保健(前期)		
3限	臨床心理実務倫理論(前期)					
4限						
5限				卒業研究II		

※2019年6月時のものです。

卒業生からのメッセージ



心理学は
汎用性も需要も高い学問です。
社会人となった今、
それを実感しています。

姜 怡君さん 2013年3月卒業
広告代理店 勤務

どの仕事においても「人の心」を理解することはとても重要で、それは商売の先にいるのも人で、一緒に仕事を作るのも人で、どのフェーズにおいても「人」なしでは成り立たないからです。現在、広告代理店の営業として勤務しており、日ごろから接遇する人がとても多く、それぞれの個性や仕事の進め方を把握し、コミュニケーションをとりながら仕事を進めていく必要があります。そのような中で、心理学という学問は実はものすごく汎用性が高く、需要も高い学問だと、今とても実感しています。もともと人の感情に対して興味があり、自分自身に対しても「どういう思考でこういう行動を起こすのだろう」などよく考えていました。そのため、大学では興味をもっている「心理」を学びたいと思い、本学科に入学しました。少人数の学科なので、先生との距離が近く、質問や会話などしやすい環境でした。心理学に興味がある皆さん、本学科でぜひ内容の濃い、自分のためになる大学生生活を送ってください。

※2017年6月時のものです。



「心理学」は
知れば知るほど奥深く、
不思議で興味が尽きない学問です。

三宅 愛さん 2008年3月卒業
2010年3月青山学院大学大学院 文学研究科心理学専攻
臨床心理学コース 博士前期課程 修了
日本赤十字社医療センター附属乳児院 勤務

乳児院の常勤心理士として入所している乳幼児の心身のケア、ご家族の対応、カウンセリング、職員へのコンサルテーションなどを行っています。「生活臨床」という仕事は難しさもありますが、心理士は3人体制と恵まれた環境の中、毎日楽しく働いています。昨年、リトミック(音楽教育の手法)の指導者資格を取得したので、今後、新たな角度から子どもたちに関わっていこうと考えています。小学生的頃に観たドラマで心理学に興味をもち、中学・高校を通じ「人」について学びたいという思いがわき、臨床心理士の資格取得を視野に入れて青学の心理学科を選びました。多くの授業から自分の興味のある領域・分野の授業を選ぶことができ、他学部の授業も受講できたので幅広く学べました。仕事で行き詰った際、当時使っていたテキストやノートを見返すこともあります。本当に多くのことを教えていただき、また、卒業後も変わらず指導、フォローしてくださる先生方に会えたことは、現在の私の大きな支えです。

※2017年6月時のものです。



理論だけでなく、実務経験を通し、
心理職として働くイメージがつかめ、
現在の仕事へとつながりました。

小林 長さん 2011年3月卒業
2013年3月青山学院大学大学院 教育人間科学部心理学専攻
臨床心理学コース 博士前期課程 修了
埼玉県南児童相談所 勤務

児童相談所で児童心理司として勤務し、療育手帳交付にかかる判定や、虐待を受けて一時保護されている児童の心理判定などの業務を行っています。もともとは、映画が好きで、漠然と将来は映画関係の仕事に就きたいと考えていましたが、「映像心理学」という分野があることを知り、心理学科に進学しました。大学院へ進んだ動機はもっと深く心理学を勉強したかったからです。大学院では、理論的なことを学ぶだけでなく、知能検査を実施し所見を作成したり、児童福祉施設や病院に実習に行ったりと、実務的な経験ができました。それにより心理職として働くイメージがつかめ、進路選択の際に参考になりました。仕事で悩んだ時に、講義ノートや実習での経験が助けとなることもあります。心理学の裾野は広く、職場の人間関係や子育てなど、日常にまつわることはもちろん、虐待や発達障害、ひきこもりなど最近注目されている社会問題を考える上でも多くの示唆を与えてくれ、その意味で今最も「アツい」学問ではないでしょうか。

※2019年6月時のものです。

資格や身につけた知識と技術をもとに、幅広い分野で活躍することができます。

資格取得を考慮したカリキュラムで、専門的・実践的に指導します。

青山学院大学心理学科では、“資格”を専門知識や技能の集積と捉え、資格取得に向けて、十分に考慮したカリキュラム構成によって、専門的・実践的な実習や実験を中心に学び進められるよう配慮しています。

基本的に、学部教育の修得によって「**認定心理士**」資格を、さらに大学院での専門教育の修得をベースに「**公認心理師**」「**臨床心理士**」資格を取得することが可能です。

◆**公認心理師**
公認心理師は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野において、心理的アセスメント、心理学的支援を行います。2015年に「公認心理師法」が公布され、2017年に施行されました。本学科では2018年度から公認心理師のカリキュラムに対応するコースを設置しました。

◆**認定心理士**
心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の標準的基礎学力と技能を修得している、と公益社団法人日本心理学会が認定した人のこと。心理学科の卒業単位を修得することにより、公益社団法人日本心理学会の「認定心理士」の資格を申請し、取得することができます。

◆**臨床心理士**
カウンセラー、セラピスト、心理職といった心理学の専門家のうち、臨床心理学を学問的基盤に持つ人のこと。公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定しています。資格を取得するには、基本的には、大学院修士課程を修了後、実務経験を経てはじめて受験資格が得られます。ただし、本学の大学院心理学専攻臨床心理学コースは、「臨床心理士」受験資格第1種の指定大学院に認定されているため、実務経験を必要となく、大学院修了後、ただちに受験資格が得られます。

本学大学院は、より専門性の高い「臨床心理士」の指定大学院に認定されています。

本学の大学院心理学専攻は、すでに60年以上にわたる実績を持ち、心理学分野におけるさまざまな研究成果をあげると共に、数多くの専門家を輩出しています。資格取得希望者の多い「臨床心理士」について、本専攻臨床心理学コースはその受験資格第1種の指定大学院に認定されており、最短期間での資格取得の道が開かれています。また、国家資格である「公認心理師」養成のカリキュラムも用意されています。

大学院への進学実績
本学大学院をはじめ、国公立および私立の大学院に毎年15名ほどの卒業生が進学しています。

●筑波大学、一橋大学、専修大学、日本女子大学、東京工業大学、早稲田大学、東京国際大学、京都女子大学、桜美林大学、上越教育大学、大正大学、神戸大学、学習院大学、東京大学、東京学芸大学、駒澤大学、立教大学 など

“心理学の専門家”は、教育・医療や企業の現場など、あらゆる場面で求められています。

就職分野
心理学の専門的知識や技術を活かした進路選定や就職が可能です。
●教育現場での心理相談に活かせる教育臨床心理の仕事 ●地域や職場での精神保健に携わる仕事 ●障害児(者)の施設などでの仕事 ●一般企業内で情報処理技術や社会心理学を活かした専門的職種に従事できるような仕事 ●心理学系統大学院への進学など

卒業生の就職実績
本学科の卒業生の多くが、心理検査や人事相談、情報処理技術を活かした専門的職種などで活躍しています。

●教育関連の機関 ●心理相談センターや心身障害児施設などの医療・福祉関連機関 ●一般企業をはじめとした民間および公的な法人組織など

VOICES “心理学科”在學生に聞きました。

「心理学」という学問に興味があったから **95%**

自分や他人の気持ちを理解するため **83%**

大学の知名度が高いから **78%**

大学のイメージが良いから **71%**

日常生活に役立つと思ったから **70%**

将来に生かせると思ったから **65%**

自分で面白そうな研究ができそうだから **59%**

Q.1 心理学科を志望した理由は何ですか？

2018年度心理学科入学生にアンケートを実施。
回答があった112名の結果を集計し、上位にあった回答を掲載しました。

Q.2 心理学科の良さは、 どんなところですか？

2018年度心理学科2～4年生にアンケートを実施。
回答があった93名の結果を集計し、上位にあった回答を掲載しました。

96% 学問的に面白い

96% 自分の心理・行動への洞察が深まる

95% 授業が興味深い

92% 人間への関心が高まる

86% 専門科目が豊富に用意されている

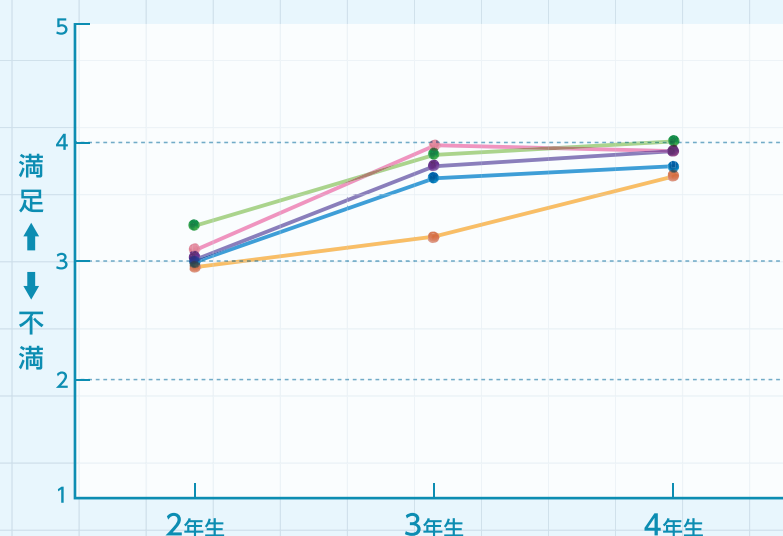
71% 教員が魅力的

70% 他者の気持ちが理解しやすくなる

Q.3 心理学科スタッフの 対応はいかがですか？

2018年度心理学科2～4年生にアンケートを実施。
回答があった93名の結果を集計し、上位にあった回答を掲載しました。

- 教員の指導がきめ細かい
- 教員が魅力的
- 教員と学生との距離が近い
- 助手、助教、大学院生からの指導・助言を受けられる
- 学科研究室の事務職員が魅力的



ACTIVITIES

私たちが創る“心理学科”の伝統。

少人数構成の心理学科だからこそ、
アットホームな学びの環境があります。

青山心理学会による学年を超えた交流も盛んです。

※2018年度の例です。



4月
APRIL

新入生を歓迎する会

入学式の後、学科の2～4年生が新入生を楽しい企画で迎えます。
この会で、すぐに友達ができるのです。

5月
MAY

6月
JUNE

7月
JULY

青山心理学会広報誌発行

8月
AUGUST

オープンキャンパスでの学科紹介

9月
SEPTEMBER

10月
OCTOBER

青山心理学会主催講演会

外部の先生をお招きして、ご専門の研究等のお話を伺います。

卒業研究(ゼミ)紹介

プレゼンテーション、研究室訪問、学生主催説明会

青山心理学会総会

青山祭

11月
NOVEMBER

12月
DECEMBER

特別研究演習担当教員決定

1月
JANUARY

卒業アルバム、DVD、CDづくり

2月
FEBRUARY

3月
MARCH

学位授与式(卒業式)

ゼミの先生から一人一人学位記を手渡してもらい、
その後記念写真です。

卒業パーティー

在校生がさまざまな企画を用意して卒業生をお祝います。



新入生を歓迎する会



講演会



学位記の授与



卒業パーティー